

- ・培土は、晴天を最大限に活用し、確実に実施しましょう。
- ・開花期（7月中下旬）から9月上旬に高温・降雨が少ない日が続いた場合は、畦間かん水を行い、落花・落莢を防ぎ、青立ち株の発生防止に努めましょう。
- ・適期防除を徹底し、病害虫の被害を防ぎましょう。

1 培土後の溝の連結

- ・培土後にできた溝は、額縁排水溝及び掘り下げた排水口と確実に連結して下さい。

2 開花期からの畦間かん水⇒ 莢数確保・青立ち防止

- ・開花後50日間(7月20日頃～9月上旬)は莢伸長、子実肥大のために十分な水分を必要とする時期です。
- ・開花期後3日以上晴天が続いた場合は、土壌の乾き具合に応じて畦間かん水を行いましょう。
- ・かん水は短時間で行い、圃場全体に水が行き渡ったら速やかに排水して下さい。

【畦間かん水の効果】～収量・品質の向上～

① 着莢数の確保

- ・落花・落莢の発生防止（青立ちの発生防止）

② 百粒重の増加

- ・根の養水分吸収と光合成の向上
- ・根粒による窒素固定の向上

③ 品質の向上

- ・ちりめんじわ粒の発生防止
- ・莢ずれ粒（水不足で発生しやすい）の発生防止



莢ずれ粒



3 病害虫防除

- ・病害虫防除は生育ステージに合わせて適期に実施しましょう。**防除時期の目安は裏面参照**
- ・葉の裏にも薬剤がかかるように、丁寧に散布しましょう。
- ・散布は風の少ない朝夕に行い、周辺作物に飛散しないように注意しましょう。
- ・ウコンノメイガによる被害が見られたら、速やかに防除しましょう。

シュウレイは必ず葉焼病
防除を実施する



葉焼病(シュウレイ)

葉巻が6個/株以上、見
られたら、すぐに防除する



ウコンノメイガによる葉巻

○病害虫防除の目安

《基本防除》

	品種	散布時期	液剤対応 (ハイクリブーム等)			空散 (ヘリ、ドローン)		
			病害虫の種類	薬剤名 希釈倍率	10aあたり 散布量	病害虫の種類	薬剤名 希釈倍率	10aあたり 散布量
基本防除	シュウレイ	7月下旬	葉焼病	Zボルドー 500倍	150ℓ	—	—	—
	エンレイ	〔1回目〕 莢が伸び きた頃 (8月上旬頃)	紫斑病	プランダム乳剤25 3,000~5,000倍	150ℓ	紫斑病	プランダム乳剤25 16~24倍	0.8ℓ
			カメムシ類 アブラムシ類	ダントツフロアブル 2,500倍		カメムシ類 アブラムシ類	ダントツフロアブル 24倍	
	シュウレイ	〔2回目〕 豆が莢 いっぱい になった頃 (8月下旬頃)	紫斑病	アミスター20 フロアブル 2,000倍	150ℓ	紫斑病 カメムシ類	アミスタートレボンSE 8倍	0.8ℓ
			カメムシ類	トレボン乳剤 1,000倍				

《随時防除 (液剤)》

散布時期	病害虫の種類	薬剤名	希釈倍率	10aあたり散布量
7月下旬	葉焼病 (エンレイ)	Zボルドー	500倍	150ℓ
葉巻が6個/株以上 見られた (7月下旬~8月上旬)	ウコンノメイガ	プレバソンフロアブル5 (収穫7日前まで)	4,000倍	150~300ℓ
葉や莢に食害が 見られたら (8月中旬~)	ハスモンヨトウ マメシンクイガ			
		ハスモンヨトウ マメシンクイガ等	トレボン乳剤 (収穫14日前まで)	1,000倍